目　次　contents

はじめに　iii
本書の使いかた　vi

§1.　音声と音声言語　2
§2.　母　音　14
§3.　子　音　26
§4.　音の変化とヴァリエーション　38
§5.　表記と音　50
§6.　拍・リズムと読み　64
§7.　アクセントとイントネーション　76
§8.　プロミネンスとポーズ　88
§9.　話　す　100
§10.　聞　く　112
§11.　話し合う　124
§12.　待遇表現　136
§13.　多文化間コミュニケーション　148
§14.　音声言語教育とは　160

もう少し知りたいかたへ　172
参考〜ややわかりにくい音声記号一覧　174
音声リスト　176
おわりに　182
索引　184

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§1. 音声と音声言語

「聞く」「話す」「読む」「書く」。これを言語の4技能といいます。

「聞く」と「話す」は音声を使った情報のやりとりです。音声を使うという点で、文字を使う「読む」「書く」と異なります。この「聞く」「話す」を**音声言語**、「読む」「書く」を**文字言語**といいます。

「聞く」と「読む」は、情報を取り入れる活動という点で共通しています。反対に、「話す」と「書く」は、どちらも情報を送り出す言語活動です。

これを整理すると次のようになります。

	発信	受信
音声言語	話す	聞く
文字言語	書く	読む

文字言語にはない音声言語のみの特徴であるのか、それともたまたま音声という手段を使っているだけで、発信や受信という点で文字言語と共通した特徴であるのかは重要なことですので、注意しながら見ていきましょう。

●「話しことば」と「書きことば」ということばも同義で使われることがありますが、これらは文体を表す場合にも用いられます。たとえば、対談を書き起こしたものは、「話しことば」による文字言語です。

●学習指導要領との関連については、pp. 12-13をご覧ください。

こんなことを考えてみましょう

① 昔の人の書いたものは読めますが、昔の人の話したことばを聞くことはできません。このことから、音声言語が文字言語とどのような点で違っていると言えますか。

② 伝言ゲームをしてみましょう。「おい、雨が降るかもしれないぞ。傘を持っていったほうがいいかもしれないな。」と、10人に伝えたら、10人目まで伝わる部分はどこで、伝わらない部分はどこでしょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§2. 母　音

日本語では「ん」や「っ」を除くどんな音でも、長くのばすと「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」のいずれかの音になります。このような「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」の音を**母音**といいます。

長く伸ばすと「ア」の音になる音には、「アカサタナハマヤラワ」があります。これを**ア段**といいます。同様に、イ段、ウ段、エ段、オ段があり、五十音図では(縦書きの場合)、横に、同じ母音を含んだ音が並んでいます。

では、同じ段のそれぞれの音を区別している特徴は何でしょう。「カ」と「サ」を比べてみると、最初の音が違っていることがわかります。このような同じ母音に付いても1つの音のまとまりとして違った音にする音を**子音**(⇒§3)といいます。子音を共有した音は、五十音図で縦に並び、**行**(カ行、サ行など)を作ります。

日本語の音のほとんどは、母音の前に子音を置いた組み合わせでできています。母音は、音の中でもっともよく響く音ですので、日本語の音は一つひとつが明瞭に聞こえやすいという性質をもっています。

●「ガザダバ」のような濁音や「パ」のような半濁音、さらに「キャシャチャニャヒャミャギャジャビャ」のような拗音もア段です。

●「ス」「ツ」の母音は、単独の「ウ」の音と少し違います(⇒p. 19)。

●英語で母音はvowel。「声のあるもの」という意味です。Vで表すこともあります。一方、子音はconsonantで、con-(一緒に)、sonant(響くもの)という意味です。Cと略記します。

●音を発するために口の中の器官を動かすことを、音声学では**調音**といいます。医学の分野では構音といいます。ともに英語ではarticulationの訳語です。

こんなことを考えてみましょう

① 五十音図ではどうして「アイウエオ」の順なのですか？
② 英語を発音するときには、どうしてあんなに口を一生懸命動かさなければならないのですか？
③ 英語を母語とする人が「お父さん」というと、「おとさん」のように聞こえるのはなぜですか？

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§3. 子　音

●「ピャ」や「ギュ」のように小さいヤ行音のついた音を**拗音**といいます。拗音は §4 で見ます。

●日本語以外では、子音の発音に呼気を伴う音(帯気音⇒p. 39)であるか否かという性質が大きく関与する言語もありますし、また、肺からの息を利用しないで口の中だけで音を出したり、または吸い込むときの気流を利用して音を出すなどの方法をもつ言語もあります。

日本語では、ア行音を除けば、基本的に、母音の前に子音を伴う形で音節が形成されています。

なるべく口の中に妨げを作らずストレートに声帯の音を出す母音に対し、子音は、一般に、口腔や鼻腔になんらかの「障害」を作ることによって音が作られます(調音)。

子音を区別するのは、この「障害」の作り方です。日本語では、次の①～③の要因が関係しています。

① どこで発音されるか(調音位置)
② どうやって発音されるか(調音方法)
③ 鼻に息が抜ける音か否か(鼻音性の有無)

これらに、

④ 声帯のふるえを伴うか否か(有声・無声)

という特徴を組み合わせることによって、子音はさまざまに区別されるのです。

こんなことを考えてみましょう

① 「ふとんを敷く」を「ふとんをひく」と言ったりするように、「ひ」と「し」を間違えやすいのは、なぜですか？
② 濁音ってどんな音？　どうしてア行やナ行には濁音がないの？

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§4. 音の変化とヴァリエーション

「ん」ってどんな音ですか？こう質問されたらどう答えますか。

音声学を学んだ人でなければ、唇を閉じて「ん～」と発音することが多いのではないでしょうか。両唇を閉じたこの音は、§3で学んだ言いかたで言えば、両唇音。しかも、長くのばしていることからもわかるように、鼻から息が漏れています。つまり両唇鼻音 [m] の発音です。

では、実際の単語の中で「ん」はどのように発音されているでしょうか。次の下線部の「ん」を発音してみましょう。

げんぶつ（原物）
げんつき（原付）
げんが（原画）

同じ「ん」という字なのに実際の発音はいろいろ違っていることがわかりましたか。同じ文字で表されても、実は同じ音ではないということもあるのです。

●歴史的仮名遣いで、「冬至」は「とうじ」、「湯治」は「たうぢ」と書きます。

一方で、歴史的仮名遣いでは、「とうじ」と書いても「たうぢ」と書いても発音は「トージ」。これも歴史的な音の変化の結果生じた表記と発音のずれによるものです。

ここでは、このような音のヴァリエーションと音の変化を見ていきます。

こんなことを考えてみましょう

① 韓国・朝鮮料理の「ビビンバ」は、「ピビンバ」とも書いてあるけど、どっちが正しいの？
② 小学生が「原因」の読みを「げいいん」と書きました。どうして、こんな風に読んでしまうのでしょうか。
③「じしん」と「おおじしん」の「じ」の音は違う音だと外国人の友だちに言われたんですが、本当ですか？

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§5. 表記と音

古典を読んでいると、「かは」と書いて「かわ」と読んだり、「たう」と書いて「とう」と読んだり、とかく書いてあるとおりに読めないと思うことがあります。

これは、ある時代の音を写した表記が、後の時代になって音が変わってしまったにもかかわらず、変わらなかったことによるものです。このように表記法は発音に対して、常に保守的な側面を持っていて、時代とともにずれが生じてくる性質を帯びています。

また、現代日本語は発音と表記のずれが小さいと思われていますが、実際には「じ」と「ぢ」のどちらで書いたらよいか迷ったり、「おう」の発音が「オー」か「オウ」かで迷ったりすることがあります。「を」の「正しい」読みかたをみなさんはご存じですか([ɯo] ではありません)。

さらにはローマ字の表記も見ていきます。みなさんは、「し」や「ち」を ‘si’, ‘ti’ と書きますか、それとも ‘shi’, ‘chi’ と書きますか。ちょっとした綴りの違いですが、言語音の体系の捉え方が異なります。

●英語の knight では、k と gh を現代では読みませんが、古英語では、cniht [kniˑçt] と、まさに綴りどおりに発音されていました。

●knight(騎士)と night(夜)のように、英語には同じ発音であるにもかかわらず、綴りが異なる語があります。これを同音異綴字(どうおんいていじ)といいます。これは、漢字による語の識別法に類似した方法です。

こんなことを考えてみましょう

① 「新妻」は「にいづま」って書くのに、「稲妻」は「いなずま」と書くと聞いたのですが、本当ですか。本当だとしたら、なぜ書き分けるのですか。

② 学校で習ったローマ字と、駅の看板に書いてあるローマ字が違うのですが、どうしてですか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§6. 拍・リズムと読み

じゃんけんで勝つとその出したサインに応じていくつか進めるという遊びがあります。グー・チョキ・パーのうち、パーで勝った場合、いくつ進みますか。ある地域では「パ・イ・ナ・ッ・プ・ル」と6つ進むことができると決まっています。小さい「ッ」も1つと数えています。

英語ではどうでしょう。‘pineapple’ は辞書に [páin.æ̀pl] と書いてあります。ふつうに考えて2つしか進めません。

このように、音の数の数えかたは言語によって異なりますが、音節を基本としている点では同じです。しかし、日本語では音節として切り離せない音も1つと数えています。それは、「ッ」です。音節としては [pa.i.nap.pɯ.ɾɯ] と5つであるにもかかわらず、6つに数えている。なんだかずるいことをしているのでしょうか。

実は、日本語(正確には共通語を含む相対的に広い地域で用いられる日本語)は、音を数える単位として、音節とは別に**拍(はく)(モーラ)**という単位をもっています。この単位は、リズムを取る上でも重要な単位です。

なお、読点とポーズについては、§8を見てください。

●発音記号の間のピリオド [.] は、音節の区切りを表します。語源意識として ‘pine’ と ‘apple’ は切れていますが、必ずしもここに音の切れ目を入れなければならないというわけではありません。

●「ッ」を促音といいます。促音も1つの音節とするべきだという考えかたもありますが、日本語でだけ「音節」を別の意味で用いるのは好ましくありません。紛らわしくないよう「拍」という名に統一しておきましょう。

こんなことを考えてみましょう

① 「チョコレート」と数えるときは、いくつに数えますか？
② 英語を話す人が「高校」を「ここ」のように言うのですが、どうしたら、区別してもらえるでしょうか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§7. アクセントとイントネーション

●声帯については、p. 30を見てください。

●音の高さは、一秒あたりの音波の振動回数によって変わります。この振動回数を周波数といい、Hz(ヘルツ)という単位で表します。音声は、いくつもの周波数の音の複合体で、そのうちもっとも低い周波数を基本周波数といい、その音を高さの基準と考えます。

●アクセント、イントネーション、プロミネンス(⇒§8)、リズム(⇒§6)など、音に随伴し表出される音声的特徴を、(狭い意味での)**韻律特徴**といいます。韻律特徴によって伝達される発音意図等の情報は、**パラ言語情報**と呼ばれます。

「アー」と言いながらのどを触って、まずふだんの声帯の位置を確かめてください。徐々に高い声を出していくと声帯の位置はどうなりますか。上に上がっていくのがわかるでしょう。声を低くすれば声帯の位置は下がってきます。

楽器でも、ピッコロやバイオリンのように高い音を出す楽器は小さく、オーボエやコントラバスのように低い音を出す楽器は大きく作られています。人間の声も同じで、声帯を高い位置に上げ口腔までの距離を短くすれば高い音が出ますし、逆に声帯を下げ距離を広げれば低い音が出ます。このようにして人間の音は高さを変えています。

日本語には、音の高さの時間的変化に関して、アクセントとイントネーションという2つの**音調**に関する特徴があります。よく混同して使われるこの2つの概念ですが、アクセントは語の意味を区別したり語の境界を表したりする役割を担うもので、イントネーションは聞き手への問いかけの有無など文の意味とも関係するものです。ここでは分けて考えていきます。

こんなことを考えてみましょう

① アクセントってどうやってできて、何のためにあるの？
② 「カレシ」と「カレシ」、「クラブ」と「クラブ」って同じものなの？
③ 「そうなの。」小中学校の教科書では、「？」をあまり使わないけど、どんな読み方をしたらいいのですか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§8. プロミネンスとポーズ

これまで見てきたものを含め、音声言語で伝えられる情報は、次のような階層をなしていると考えられます。

	機能	言語形式的実現	参照課
話者属性レベル	恒常的性質表示	声質、口癖 …	§14
感情・表情レベル	一時的状態表示	声の表情 …	§9
人間関係レベル	対人配慮表示	待遇表現 …	§12, §13
発話意図レベル	発話意図表示	文末イントネーション …	§7
文法レベル	文内焦点の特定・文節関係明示	プロミネンス・ポーズ	§8
語彙レベル	語の弁別	アクセント	§7
音素レベル		音素、音節	§2, §3

最上位の話者属性レベルをはじめ上位2レベルは、話し手一人ひとりの声や話しかたの個性です。個性を尊重しつつ、社会との関係でどのような音声言語を身につけるべきか・身につけ(させ)たいかによって、より適切な方法を選択肢としてもつことを目指すとよいでしょう。

逆に下位5レベルは、言語上の規則です。これらを間違えれば誤解を生じることがあります。常にすべて正しくある必要はありませんが、国語教師という職業としては、より正確な知識をもつよう努力したいものです。

ここでは、プロミネンスとポーズという2つの文法レベルの現象について見ていきます。

こんなことを考えてみましょう

①「昨日、本屋で田中君に会ったよ。」という文。「本屋」を際立たせた場合と、「田中君」を際立たせた場合の、意味の違いってどんなもの？

②「にじ色のゼリーのようなくらげ」って、どんなくらげなのでしょうか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§9. 話　す

音声言語の連鎖(⇒ p. 3)という観点から考えたとき、話すことは、いくつかの段階に分けられます。

① 言語学的段階：話す内容を選択し順序を整えたり適切なことばを選んだりして調節していく
② 生理学的段階：①の内容を音声的に実現する
③ 音響学的段階：②が音波として聞き手に届く
④ 生理学的段階：③が聞き手の耳で受信される
⑤ 言語学的段階：④を聞き手が脳で理解する

これら①～⑤のすべてを、話し手(発信者)側から捉えることが「話すこと」です。

●国語では、まさに①や⑤をより重要視している点に、音楽との違いがあります。

「話すこと」の教育の中には、①の段階を重視する立場が強くありますが、①には、同じ発信するための技能である「書くこと」と共通する能力も多く含まれています。「書くこと」と共通する部分と、「話すこと」のための発信能力とは分けて捉え、音声言語運用能力を高める必要があります。

また、②の段階としての声の大きさ(強さ)、高さ、話の速さ、声質などのコントロールや、③の段階としての周囲の音響環境、そして何より、④や⑤という聞き手側に内在する段階までを「話すこと」として捉え、「伝える」、そして「伝わる」ことまでを目標に技能を磨きましょう。

こんなことを考えてみましょう

① 声って大きければ大きいほどいいの？
② どんな話しかたをすれば、聞いている人によりよく伝わるの？

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§10. 聞　く

耳は24時間営業。目は閉じられても、耳は、寝ているときにも鼓膜で音声の物理的な振動を感じています。

しかし、寝ているときは「聞いている」のでしょうか。周囲の音声情報が夢に影響を与えることはあっても、それは「聞いている」ことにはなりません。「聞く」ということは、脳による情報獲得という能動的活動であり、単に「耳に入る」という受動的態度とは違うのです。

「聞く」ことが能動的におこなわれるのは、もちろん起きているときです。授業中、起きてはいても先生の話を聞いていないという態度も、大勢いる中で好きな子のことばだけを選んで聞くカクテルパーティ効果(⇒ p. 102)も、天気予報で自分の地域の天気の情報しかおぼえていないことも、すべて、選択的に脳で聞いている証拠です。話は、耳ではなく脳で聞くものなのです。

話している人のほうに顔を向け、最大限の音声が受容できるようにすることは、耳の生理学的性能を上げるとともに、話の内容に関心を持ち能動的に受容しようと感度を上げることです。

●聴覚情報と視覚情報がくい違うとき、必ずしも耳は正確な情報取得をおこないません。たとえば「ガ」の発音をしているのに唇が閉じている映像を見ると「ダ」と聞いてしまいます。このような音声知覚に対する視覚情報の関与を示す現象をマガーク効果といいます。

こんなことを考えてみましょう

① 講演を聴いてメモやノートをとるとき、どのようなことに注意すれば、よく理解することができるでしょうか。
② 発言の順番になっても、何も言えないで黙っている児童にどのように声をかけますか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§11. 話し合う

「話す」「聞く」「書く」「読む」という言語の４技能のうち、「話す」と「聞く」は、密接に関連した分野です。話す技能・聞く技能を個別に伸ばすことが必要な面もありますが、学習指導要領でも１つの領域としてまとめられているように、同時かつ双方向におこなうこと、すなわち「話し合う」ことがより強く求められます。

話し合うことにはさまざまなパターンがありますが、ここでは、次に挙げる要素によって整理して考えていきます。

① 参加する人数と役割

a. 人数：（基本的に）２人（対話やインタビューなど）
↔数人以上（座談会や会議など）

b. 司会者：なし（自由討議、座談会など）
↔あり（会議、ディベート、パネルディスカッションなど）

●自問自答という形式もあります。これは、対話に参加する２者を１人の人物が同時におこなうことです。

② 内容

a. 目的：（多様であり本文中で解説）

b. 意見の幅：対極的（ディベート）
↔多様（パネルディスカッション）

c. 話題：広範囲に浅い↔限定的で深い

d. 情報の流れ：一方向的↔相互的

●とくに明確な目的がない「会話」は「話し合い」に含めません。

③ 場

a. 公私：私的↔公的

b. 雰囲気：やわらかい↔かたい

ほかに、どのような資料を用いるか、他の助言者を求めるか否かなどによっても話し合いの形態は変わってきます。

こんなことを考えてみましょう

① たとえば「早期英語教育は是か非か」と問われても、どちらか決められないと話し合いには参加できないのですか。

② 司会者の役割は、発言者を当てるだけですか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§12. 待遇表現

話すときに気をつけなければならないことのひとつに、場面や聞き手、それに話の内容に出てくる人への配慮があります。このような配慮を表すために用いられる表現を、待遇表現といいます。待遇表現は、いわゆる敬語も含みますが、敬語だけが待遇表現ではありません。

- 高い待遇
  - 敬語
    - 素材敬語
      - 尊敬語：「お～になる」「れる / られる」…
      - 謙譲語：「お～する」「伺う」…
    - 場面敬語
      - 丁寧語：「です」「ます」「ございます」
      - 丁重語：「いたす」「参る」「申す」…
  - 美化語：「おかし」「お天気」「ご褒美」…
  - 恩恵表現：「～てくれる」「～てもらう」…
  - ぼかし表現：「～のほう」、自動詞表現…
  - 褒め方・尋ね方…
- 低い待遇　卑罵表現：「食う」「～やがる」…

●待遇表現についての文法的解説は、『国語教師が知っておきたい日本語文法』§14を参照してください。

音声言語としては、これらの文法的な形式をどのように使うかが問題となるとともに、相互性のある音声言語ならではの使いかたも重要です。

敬語をはじめ待遇表現は、使わなければならない義務ではなく、適切に用いれば自分の評価が上がる装いの手段です。上手に使えば自分が輝く。そんな手段として使えるようにしていきたいものです。

こんなことを考えてみましょう

①　セールスマンの中には、敬語を使っているのだけれど、なんだか心がこもっていないと感じることばを使う人もいます。どのような点でそう感じるのでしょう。

②　情報関係のセミナーに出席したら、「ロケール」や「セキュア」などわからないことばが多く使われていました。素人が出席してはいけない会だったのでしょうか。

●「ロケール」(locale)は「現場」が原義で、情報関係では「特定の国や言語の環境」を意味します。「セキュア」(secure)は「安全な」という形容詞です。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§13. 多文化間コミュニケーション

国際化の時代です。

国際化というと、すぐに「英語が話せなければならない」と考える人もいますが、実際、そうとばかりはかぎりません。日本には、2011年末現在200万人を越える外国人が住んでいますが、英語が母語である人は少数です。教育に関しても、留学生でもっとも多いのは中国からの留学生で、小中学校に増えてきている多くの外国籍児童生徒の母語はポルトガル語やスペイン語です。必ずしも英語がコミュニケーションの役に立つとはかぎりません。

日本で教える教師(教師になる人も含めて)の側も、英語や相手の言語が流暢に話せるという人は多くないでしょう。しかし、日本語はコントロールできるはずです。難しい日本語を使わないでやさしく言うことができれば、日本語で通じ合うことも可能ではないでしょうか。

英語は1つの手段ではあるけれども、英語だけが国際コミュニケーションの道具ではありません。日本語を上手に使う方法も、場合によっては、日本語を母語としない人とのコミュニケーション手段として有効に作用します。

ここでは、2つ以上の言語話者の間で、どちらかの言語を使ってコミュニケーションを図る場合に、どのようなやりかたが有効であるかを考えていきます。

●言語の問題としては、「日本語を母語としない人」とのコミュニケーションを考えるべきで、国籍上の「外国人」とは分けて考える必要があります。本書では、煩を避け理解しやすくするために、慣習的なことばを原則として用いています。

●国籍と自由に使えることばが違うこともありますので、「母国語」ということばは使いません。「国際」ということばも実情にはそぐわないものですが、便宜的に使っておきます。

●母語話者をnative speaker(s)といい、非母語話者をnon-native speaker(s)といいます。

こんなことを考えてみましょう

① 「ゲソクキンシ」と「クツオヌイデクダサイ」。どちらが聞いて、よりわかりやすいでしょうか。

② 日本語を話さない小学校4年生児童に、小学校1年生の国語の教科書を使って日本語を教えることは可能でしょうか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

§14. 音声言語教育とは

すでに見てきたように、音声言語にはさまざまな段階があり、それぞれにさまざま側面があります。音声言語の教育において、これらを「どのように」教えるかが問題となります。

「どのように」の具体的な中身としては、

① どのような基本的態度をもって教えるか
② どのような人に(誰に)教えるか
③ どのような方法で教えるか
④ どのような機会に(いつ、どこで)教えるか
⑤ どのような目的において教えるか

●「教える」の主語は、もちろん、みなさん、教師です。

「何を教えるか」は、ここまで見てきた音声言語のさまざまな側面です。①～⑤それぞれについて「何を教えるか」が定まってきます。中には、今緊急に必要なものから当面必要性が低いものまであると思いますが、どれひとつ全く無駄と言えることはありません。不断の努力によって、一つひとつステップを上っていってください。

こんなことを考えてみましょう

① うちの子は、方言がきつくてまともに話ができないと言われて、ショックを受けています。どうしたらいいのでしょう。
② 普段の音声言語を育成するためにも、アナウンサーになるのと同じような訓練が必要なのでしょうか。
③ 毎日、どなってばかり。私の声は大丈夫でしょうか。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers